

「ひびきあいの日」～光射す空へ～

令和4年10月26日(水)
岐阜県立海津明誠高等学校

今年度の「ひびきあいの日」は[若年性認知症][同和問題][LGBT]の3つの人権課題に焦点を当てた作品を視聴しました。この3つについて、正しい知識と理解をもっていますか？現代では、多様性の受容、相手への尊重が求められています。今回の作品を通して、誰もが人権を尊重され自分らしく生きていける社会について考えを深めることができたのではないのでしょうか。

全校の皆さんの感想(一部抜粋)をご覧ください。



1年生



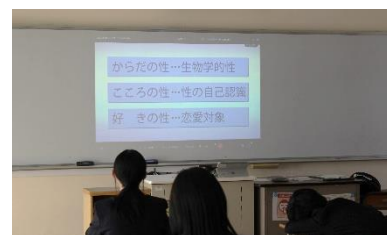
全ての情報が正しいとは限らず、自分でより詳しく調べてみたいと思った。また周りのサポートが少ないと認知症の方が不安定になり、家族もパニックになってしまうことが分かった。周りの助けがあるだけですぐ救われることが分かった。差別が存在する社会があってはいけないと思いました。自分の目でみてみないと事実が分からないと改めて知ることができて良かったです。

認知症は高齢者のイメージが強いが、65歳未満の人で発症する若年性認知症があるとは思わなかった。若年性認知症はうつ病などの精神疾患に症状が似ていることも分かり、オレンジプランのことも詳しく知ろうと思った。LGBTは、からだの性、心の性、好きの性という3つがあり、昔の考えでは、人を傷つけてしまうことが分かった。

小学生の時に認知症サポーターの学習をした記憶があり、もう一度認知症について再確認して理解を深めたいと思いました。差別や偏見を生んでしまうのは、分からないままにしたり、理解しようとしなかったりすることだと思うので、積極的に人権問題について知りたいと思い、周りで困っている人がいたときに寄り添えるようになりたいです。

日頃、普通と思っていることも、それはたくさんある中のたった一つの考えで、それをすべての人が思っているわけではないと改めて気づくことができました。同和問題、LGBTなどの多くの人権問題が世界にはあることを知って、一般的な考えだけではなく、自分にはない考え方もたくさん感じ、理解、尊重できる世の中にならなければいけないと感じることができました。

2年生



認知症は年齢関係なく発症することは知っていたけれど、自分のことも忘れてしまう病気で、他の人からも差別されてしまうのはすごく悲しい。同和問題やLGBTなど、たくさん問題はあけれど、それを知ることがすごく大事で、それを伝えていき、お互いのことを知る思いやりの心が大切であると知った。自分も他人ごとではないので人権問題での差別をなくすために、しっかり関わっていき、人間の命の尊さをしっかり尊重したい。

認知症の人には、言動に自然に寄り添うということが分かり、LGBTの人にはその人の考えを理解し尊重することがいいと分かりました。何も知ろうとしないで偏見を持つのではなく、正しい情報を正面から理解することが大切だと分かりました。そのため、安易に知るのではなく、自分の目で見て、自分の耳で聞いて知ることが良いと分かりました。周りにそういうことで困って悩んでいる人がいたら寄り添い支えてあげて気分を楽にしてあげたいです。

3年生

